



www.alpajapan.org

日乗連ニュース ALPA Japan NEWS

Date 2002.11.01 No 26 - 11

発行:日本乗員組合連絡会議・ALPA Japan
幹事会
〒144-0043
東京都大田区羽田5-11-4
フェニックスビル
TEL.03-5705-2770 FAX.03-5705-3274
E-mail:office@alpajapan.org

SECURITY について考えよう

シリーズ

米国同時多発テロの教訓を生かし

抜本的な Hijack 対策を！！

IFALPA Annex 17 は、ICAO Annex 17 (Security 関連) に対応する Manual です。2001 年 9 月 11 日に発生した米国同時多発テロ事件を契機に、IFALPA Annex 17 の Security 対策の根本的な見直しが行われています。改定された項目の特徴点、関連した取り組みを紹介します。

IFALPA はこれまで、「民間航空機への武装した Security Guards の搭乗には強く反対する」姿勢を取り続けてきました。2002 年の IFALPA 総会で承認された改訂では、「しかるべき状況下で Armed Guards の配備搭乗が必要であるとされた場合には、これを認める」、となりました。IFALPA がこの結論に至るまでにはさまざまな論議がなされましたが、改訂に至る主たる議論は次のようなものでした。

IFALPA における、Armed Guards に関する Policy 変更の提案に至る議論

米国同時多発テロ事件にみる、航空機が Hijack され武器として使用される事態は、これまでの Hijack 対策では想定されていなかった。根本的な Hijack 対策の見直しが必要となった。

新たな Hijack 対策には、武器使用への対策とともに、従来タイプの対策も必要である。Hijack 対策は、純粹に技術上の問題として作成されなければならない。政治的、経済優先的な要素は排除され、選択肢がある場合は、どちらがより安全か確実な対策となるかを検証する。

出発前の Security を厳しくしても、Hijack の発生を 100 % 防止することは不可能である。地上における Screening と、機上における Hijack 対策の両方を実施することが重要。

テロの脅威は地域に限定されない。また対象となる航空会社も限定されることはない。Hijack が発生する可能性を否定した場合には、効果的な対策は作成されることはない。

Policy には、Armed Guards の配備は、航空会社や民間警備会社などが行うのではなく、「政府の責任において、要員の採用、所属、訓練、能力の保証がなされた上で実施されること」、「航空会社、航空機製造会社の協力が必要である」と厳しく条件を付けています。さらに、「各



協会が、政府と協力してこれにあたる」ことが必要であるとしています。

更に「配備される要員の、訓練と能力」は、当然最高レベルものが要求されます。米国同時多発テロ以降、各国で採用されている「Armed Guards」について見てみると、その要員の出身や運営する機関が国によって差異があるため、現在 ICAO により Armed Guards に関する Standard の準備が進められています。国により Armed Guards のレベルが違うことは、大きな問題となるからです。乗員の意見がはっきりと反映されなければ、現場で混乱を招くことになるので、IFALPA では乗員の担当者が参加して乗員の意見が反映されるようこの問題に取り組んでいます。

Armed Guards は、これだけで Hijack 防止につながるというのではなく、あくまでも機内における Hijack Procedure のひとつであること、航空機出発前の地上における Security が万全に行われることが大前提であり、そして Hijack 発生に備える対策のひとつであるということです。

米国同時多発テロ以降、それ以前から行われていたイスラエル、オーストリアなど十カ国に加えて、アメリカ、ドイツ、スイス、オーストラリア、インドなどにおいても Armed Guards 搭乗の開始、または準備が行われています。この他にも検討中の政府がありますが、これらの国では「武器の機内への持込み」に関する法的整備が大きな課題となっていると伝えられています。

またサッカーW杯での日本の警乗問題では、法的問題の未整備、乗員の意見が反映されない運営、警乗者の訓練等の問題点が多数指摘されましたが、これは IFALPA が唱える Policy に真っ向から反するものであるといえます。

今後は、ICAO における Armed Guards のための Standard が早急に示されること、IFALPA として、Armed Guards に関する Policy や、総合的な Hijack Procedure などの作成が必要となります。同時に、国内でも Armed Guards についてさらに深い論議が課題となっています。

* 参考資料として、2002年の定例総会で確認された IFALPA の Policy Statement(通称:POL STAT)をご紹介します。

CARRIAGE OF ARMED GUARDS (MARSHALS etc.)

POL STAT 2002

IFALPA accepts that, under certain circumstances, there may be the need for the deployment of armed guards on board civil aircraft. If carried, it is essential that they are State employees with an approved qualification.

Responsibility for employment, training, qualification, and deployment of armed guards must rest with State Authorities in co-operation with the airlines and the aircraft design authorities. Member Associations should be involved with their State Authorities to jointly develop procedures to be used for the carriage of armed guards. Training and certification of armed guards must be to the highest standard (e.g. law enforcement agencies' special operations training).

Note: IFALPA considers that ICAO should develop SARPS and guidance material for the training, qualification and deployment of armed guards.

The installation of special security protection or provisions for cabin, flight deck and other sensitive areas of the aircraft should not be considered a substitute for effective ground security.